

三中だより

令和4年度 7月号



令和4年7月1日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 5)
校長 小柴 憲一

特別な教育課程による自己肯定感の高まり

本校の三組は、通常の学級の教育課程とは異なり特別支援学級としての教育課程で教育活動を行っています。その教育課程は、本校の経営方針である「社会を構成する一員としての自覚を高める」ことを目標に、障がいのある子どもたちに必要な資質・能力を身に付けることを目的としています。

10名という少ない在籍数ではありますが、一人一人の障がいの特性は異なるために、教員3名、介助員1名、さらには豊富な講師陣という手厚い指導体制により個々の状況に応じた教材・教具の使用や指導方法の工夫を行っております。そこには、できるだけ「できた」「分かった」という成功体験を経験させるとともに、「みんなのためになった」「三組や学校のために働いた」という自己の存在意義を感じさせることにより、自己肯定感を高めていくねらいがあります。おそらく、通常の学級のような大きな集団やそのスピード感の中では高めていくことが難しい、人としての重要な要素なのです。

特別な教育課程の中には、通常の学級では経験できない行事があり、5月21日(土)に開催された東京都障害者スポーツ大会への参加はその一つです。東京パラリンピック大会の感動の記憶が残っていることと思いますが、同じ状況で公正・公平なルールの下でスポーツを通して競い合い、悔しい思いをすることや、その悔しさをきっかけに次の目標に進もうとする意気込みをもつことや、表彰される成績を取ることで達成感を感じることも、さらには全国大会の候補者になる大きな喜びを味わうこともできました。また、6月22日(水)～24日(金)に実施された区内特別支援学級合同の清里移動教室も特別支援学級ならではの行事であり、それぞれの子どもが異なる困難を感じている中で2泊3日を互いに助け合いながら生活したり、自分の係に責任をもったり、他の3校もいる状況でみんなの前であいさつの号令をするなど、三中生としての役割を果たしたりする経験もすることができました。




一方で、地域で生活しているからには、将来的にも地域の方々と共に社会貢献していくことになることから、通常の学級との「交流及び共同学習」を推進するよう求められているところです。ですから、三組の子どもたちには一人一人の交流学級があり、運動会などの行事ではその交流学級の一員として競技に参加したり、通常の学級で学年行事があるときなどには一緒に参加したりしています。先日の修学旅行に、三組の3年生が参加したのもその一つです。また、通常の学級の子どもたちにとっては、一人一人の特性を知り、「今、どんな気持ちなのか」「今、何に困っているのか」を理解しようとする機会になるとともに、補助するだけではなく自分たちよりも努力することに秀でている場面にも気付くことにもなります。これが共生社会の根幹となるわけですが、中学生にとっては社会生活で実行することは、まだまだ難しいことです。なぜなら、肢体不自由であったり視覚障がいであったりすれば気付くことができますが、知的障がい・発達障がい・聴覚障がいなどはすぐには分からないことがあるからです。そこで、障がいのある方々が「私は…の障がいがあります」と自らカミングアウトするケースが増えてきているのではないのでしょうか。


今、三組の子どもたちは、三組の教育課程による学習や行事、通常の学級との交流及び共同学習を通して、自己肯定感がどんどんと高まっているのがよく分かります。

新型コロナウイルス感染症対策

子どものマスク着用について



人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合においては、マスクを着用する必要はありません。また、就学前のお子さんについては、マスク着用を一律には求めています。



就学児について

（小学校から高校段階）



マスク着用の必要がない場面

屋外

- ・人との距離が確保できる場合
 - ・人との距離が確保できなくても、会話をほとんど行わないような場合
- <例> 離れて行う運動や移動、
鬼ごっこなど密にならない外遊び
- <例> 屋外で行う教育活動（自然観察・写生活動等）

屋内

- ・人との距離が確保でき、会話をほとんど行わないような場合
- <例> 個人で行う読書や調べたり考えたりする学習

学校生活

屋外の運動場に限らず、

プールや屋内の体育館等を含め、体育の授業や運動部活動、登下校の際

※運動部活動において接触を伴う活動を行う場合には、各競技団体が作成するガイドライン等を確認しましょう

※活動中以外の練習場所や更衣室等、食事や集団での移動を行う場合は、状況に応じて、マスク着用を含めた感染対策を徹底しましょう

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。

保育所・認定こども園・幼稚園等の

就学前児について

2歳未満

マスクの着用は推奨しません。

2歳以上の就学前の子ども

他者との距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めています。マスクを着用する場合は、保護者や周りの大人が子どもの体調に十分注意した上で着用しましょう。



気をつけるポイント

▶ 夏場は、熱中症防止の観点から、マスクが必要ない場面では、マスクを外すことを推奨します。

▶ マスクを着用しない場合であっても引き続き、手洗い、「密」の回避等の基本的な感染対策を継続しましょう。

※その他地域の状況に応じて、講じられている対策がある場合、それを踏まえ対応をお願いします。



新型コロナウイルス感染症予防のために（厚生労働省HP）



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare



文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について：
幼小中高・特別支援学校に関する情報
（文部科学省HP）



厚生労働省と文部科学省は共同で左のようなリーフレットを作成し、子どもたちがマスクを着用することについて過度な義務意識にならないような啓発を始めました。また、学校の教員など、指導者に対して、子どもへのマスク着用を指示し続けることについても警鐘を鳴らしているとも言えます。荒川区教育委員会でも定例の校長会で、このリーフレットを元に積極的に取り組みを推進することを強調していました。

しかし、子どもたちにすべて判断を任せて、例えば「今は朝読書の時間で誰もしゃべらないからマスクを外そう」とさせたりすることは大変難しいことであるとともに、学校ではいつ誰が必要な発言をするかは分からず、生徒会活動に位置付けることはできません。

また、保護者の方々にとっても、子どもたちの自己判断にすべて任せることには不安があるのではないかと思います。

そこで、本校では以下のような基準を設け、子どもたちには各学級において説明しているところです。

【登下校時】

●熱中症対策のため、以下の条件を満たしている場合はマスクを外しても構いません。

- ・1人で登下校しているとき
- ・他の人との距離(2m以上)が確保できているとき

【校内生活】

| 場所 | マスクの着用について |
|---------------|-------------------|
| 教室(特別教室) | 着用する |
| 学校図書館 | 着用する |
| 体育館 | 先生の指示に従う |
| 校庭 | 先生の指示に従う |
| プール | 先生の指示に従う |
| 廊下及び階段 | 着用する |
| 更衣室及びロッカースペース | 着用する |
| トイレ | 着用する |
| 校庭開放・体育館開放 | 生徒会本部のルールにより、着用する |

・給食については今までと同様に、前向きに座り、無言で喫食します。

・健康診断時も今までと同様に、必要に応じてマスクを着用します。

【授業・部活動・放課後の活動】

●原則、マスクは着用します。

ただし、人との距離(2m以上)が確保できている場合や人との距離が確保できていなくても会話をほとんど行わない場合、また熱中症予防及び呼吸の確保など安全管理が必要と思われるときは、担当教員や顧問がマスクを外す指示を出すことがあります。

上記はあくまでも基準です。教育活動によっては、教育的効果を高めるために感染防止策をとった上でマスクを外させる場合もあります。ただし、外すことをいやだと言っている子どもに対してマスクを外させることを強制はしませんが、マスクを着用していることに関するリスクについては説明してまいります。

ボランティア活動は社会性が養われるだけではない

地域行事が3年ぶりに復活し始めました。まだまだ3年前のようにはいきませんが、区内でも町会によって実施に踏み切る地域行事があると聞いています。

そのような地域行事では、適正な判断ができ体力も十分に備わってきている中学生によるボランティアは貴重な戦力となります。ですから、各主催者の方々は中学生のボランティアを求められているのではないかと思います。

本校では、地域行事などへの生徒によるボランティア活動を強く推奨しております。先日も汐入小学校の運動会に、本校の防災部から延べ7名のボランティアを派遣しましたが、汐入小学校の校長先生からは「大変助かった」とのお言葉をいただいております。

そもそも、ボランティア活動とは個人の意志に基づく自主的な活動であり、活動者個人にとっては自己実現の欲求や社会参加意欲が充足されるなど、いわゆる社会性が養われることとなります。

しかし、それだけではありません。個人の意志に基づく活動ではありますが、様々な構成員がともに支え合うことにより、社会においてそれらの活動が広がり、社会貢献・福祉活動等への関心が高まっていき、交流する地域社会づくりが進むなど、大きな意義ももっています。

つまり、中学生としてボランティア活動に参加するということは、本人の社会性が養われるだけでなく、大人たちの意識改革を図る、大きな地域貢献をしているということになるのです。

例えば、今度、7月3日(日)に開催される「鉄人レース・イン・汐入」の場合、小学生のマラソンを先導したり、安全を管理したりするなどの役割を果たすことにより、地域行事を支える一員になっているという自覚をもてます。ただ、それ以上に、ボランティアとして参加する中学生が、主催者となっている「鉄人レースイン汐入実行委員」「南千住スポーツクラブ」の方々や、協力者として参加する数々の地域団体の方々と共に支え合って築き上げていくことにより、その地域行事を見ている地域の方々の社会貢献・福祉活動等への関心が高まり、地域の活性化につながるのです。

ですから、上級学校や企業は出願者や応募者から選抜する際、知識・技能等の適性だけではなく将来性をみるために、「ボランティア活動の経験があるかどうか」に注目することがあります。なぜなら、そのような経験がある人材を入学・入社させることにより、その人自身が学校や企業に貢献することを期待するだけでなく、その人材の影響により校内・社内全体の貢献意識の高まりと活性化をねらいとするからです。学校でも企業でも、生徒や社員が生き生きと学習したり働いたりする方が、活力があって望ましい姿なのです。

今、8月28日(日)に開催される「汐入まつり」のボランティアを募集しているところです。お子さんのために、地域のために、ぜひ積極的にお子さんを送り出していただければと思いますので、ご協力お願いいたします。

お知らせ

●「鉄人レース・イン・汐入」に、以下の子どもたちがボランティアとして参加します。

1年 弘松 帆夏

2年 安藤 珠希、伊藤 紗英佳、保科 菜月、中田 瑠那、山本 さくら、バログン ハル、
太田 咲良、清野 まいあ

3年 宇田 一稀、井口 誠冬、江藤 諒、川上 七音、清水 百音、下田 魁士、田尻 夏葵、
福島 優貴、山田 陽、山下 千鶴

●第38回荒川区中学校総合体育大会 兼 夏季選手権大会バレーボール女子の部において以下の成績を収めました。

第3位